

# 平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月1日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	11120
政策名(章)	第1章 安心して生活できる福祉社会をつくります	評価担当部	保健福祉部
基本施策名(節名)	第1節 福祉文化の創造とバリアフリーの推進	評価担当課	地域福祉課
施策名	地域で助け合う福祉活動の推進	課長名	梅沢 道雄

## 1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

幅広い市民参加により、相互に支え合う地域社会の実現をめざし、市民の福祉活動への支援を行う。「相模原市地域福祉計画」に基づく事業の実施や、地域の福祉活動の担い手である市社会福祉協議会や地区社会福祉協議会、民生・児童委員への支援、また福祉活動の拠点である「あじさい会館」の管理運営などを行っている。

## 2 事業費・人員

(単位:千円)

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		506,224	・「公益法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律」の施行により、平成14年度から派遣職員の給与を派遣先団体が支給することになったことに伴う社会福祉協議会運営助成費の増。構成事業一覧の「H14決算額」は、平成15年度作成時にH13決算額(197,127千円)を記載したもの。(H14決算額は259,513千円) ・本市が中核市になったための市負担額の増および平成16年度民生・児童委員の定数の増(39人)のため ・平成16年度に策定した「相模原市地域福祉計画」に基づく事業等を実施する「社会福祉基金運用事業」と同計画の進行管理等を行う「地域福祉推進経費」を本施策の構成事業に位置づけたため。 ・「あじさい会館維持管理費」を本施策の構成事業に位置づけたため。
人件費		31,959	
市民一人あたりの事業費	510	807	
合計	314,359	538,183	

\*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

## 3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	民生・児童委員の研修会等への参加率	研修会参加者数/民生・児童委員定数×100	160(%)	H17
指標2	ふれあいいきいきサロン設置数(箇所)	高齢者を対象とした交流・仲間づくりの場である「ふれあいいきいきサロン」の設置数	92(箇所)	H16
指標3				
指標4				
指標5				

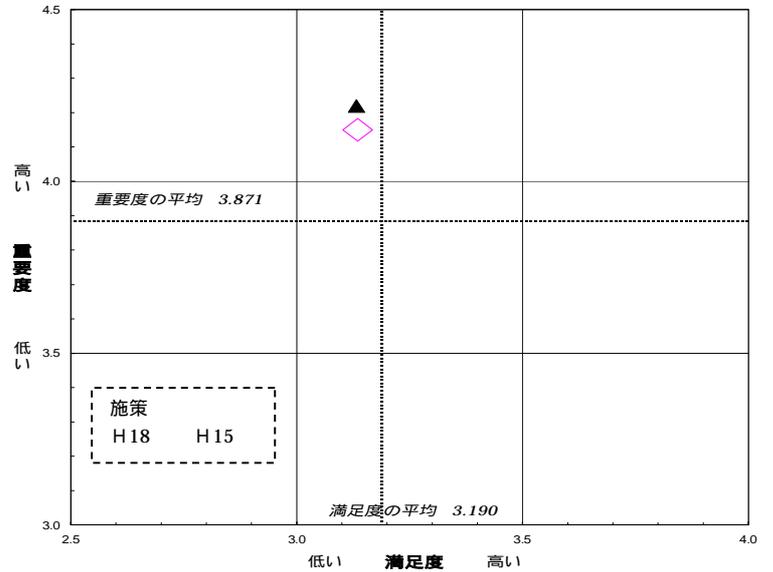
	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	150	160	19	150%	21	150%
達成率	106.7%					
指標2	131	131	19	265箇所	21	400箇所
達成率	100%					
指標3						
達成率	#DIV/0!	%				
指標4						
達成率	#DIV/0!	%				
指標5						
達成率	#DIV/0!	%				

民生・児童委員活動を円滑に進めていくためには、研修等に参加をすることにより知識の修得が不可欠である。1人が3年間の任期中に5回(年1.5回)の研修に参加することを目標とする。

「市地域福祉計画」の行動計画である市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」で掲げている目標数値。身近な地域(概ね単位自治会)に1か所設置を目標としている。

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.135で調査した51施策中32番目。  
 重要度は4.150で10番目である。  
 改善要望度は0.2362で11番目である。  
 年齢別にみると、満足度は70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。  
 重要度は、順位でみると60歳代、70歳以上を除く年齢で上位10施策に入っている。  
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	1次評価
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	④ 2 1	平成16年度に策定した市地域福祉計画に基づく重点事業として、福祉課題の発見・共有・解決のしくみづくりをめざす「福祉コミュニティ形成モデル事業」、及び福祉学習を支援するしくみ、人材育成を支援するしくみ、福祉活動を支援する情報提供のしくみの構築をめざす「福祉活動支援システム構築事業」を実施することや、地域福祉の担い手である市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会及び民生・児童委員の活動を支援することにより、福祉への理解や意識の向上が進み、ふれあいいきいきサロンの設置が促進されるなど、地域で助け合う福祉活動がより一層推進されている。	A
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	④ 2 1	民生・児童委員の研修については平成16年度から市民児協へ委託をし、民生・児童委員自らの活動に必要な研修の企画・運営にあたっており、民生・児童委員の資質向上が進んでいる。また、地域福祉計画に基づく重点事業を委託することなどにより、地域福祉を推進することを目的とする団体である市社会福祉協議会との連携を強化しながら、多様な市民の参加と協働による地域福祉の推進を図っている。これらの成果として、ふれあいいきいきサロンの設置が促進されるなど、地域で助け合う福祉活動がより一層推進されている。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 ② 1	市民満足度調査によると、平均値と比較して重要度が高く、満足度が低い事業となっている。平成16年度に多くの市民の参加により策定された「市地域福祉計画」に基づき、地域で助け合う福祉活動を推進する事業を展開している。	
合計		10	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	
解決策	

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

構成事務事業の優先順位の高い事業などから指標の設定を検討する必要がある。	2次評価
	B

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向



